

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 29 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02235

研究課題名(和文)変動下のアフリカにおける自生的企業の発展に関する研究

研究課題名(英文)Study on Development of Spontaneous Enterprises in Changing Africa

研究代表者

高橋 基樹 (Takahashi, Motoki)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研究者番号：30273808

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：ケニアのソファ製造・金属加工、エチオピアの縫製・革靴製造、タンザニアの栄養補助食、ザンビアの食品加工など、アフリカの自生的なものづくり産業における企業・事業体の発展のありかたをインフォーマル事業体までを含む広範な実証調査により明らかにした。この調査を通じて、企業等の技術、組織、政策、市場の企業の発展への影響がどのようなものかの解明に努めた。その結果、技術の労働者間の伝え合いが重要であり、また企業等の組織は上意下達型から技術の共有を基盤とする流動的關係まで多様で、また政府の政策は国策上の優先度や国・産業によって異なり、また労働市場の流動性は技術進歩への企業努力を抑制していることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アフリカの自生的なものづくり製造業の実態については、我が国の研究蓄積は乏しく、国際的にも定性的側面を含めた実証調査は限られている。本調査は、フォーマル企業ばかりでなく、セミフォーマル、インフォーマルな企業・事業体をも対象とし、発展・展開のありかたと要因を明らかにすることを旨とした、我が国でも希少な研究である。とりわけ、インフォーマル、フォーマルを問わず、労働者の技術の伝え合いが重要な回路であること、またインフォーマルな事業体同士の間では技術が共有されるために、フォーマルな企業の拡大とは異なる形の発展がみられることが明らかとなった。日本とアフリカの経済関係の今後の緊密化のために有意義な研究である。

研究成果の概要(英文)：We have studied African spontaneous manufacturing firms' development through wide-ranged empirical researches on sofa-making and metal-working in Kenya, garment and leather shoe manufacturing in Ethiopia, nutritional supplementary production in Tanzania, food-processing in Zambia, and other sectors including those informal. Through this study, we have attempted to clarify how factors such as technology, organization, policies, and markets affect process of firms' development. As a result, it is revealed that mutual transfer of technology is important, and firms organizational modes are various as they include vertical types or fluid relations among actors linked with technology sharing. Also, it is found that governments' policy differs according to priorities in national strategy and varies from country to country. Fluidity of labor market apparently discourages firms' incentive to make efforts in technological advancement.

研究分野：アフリカ政治経済研究

キーワード：アフリカ 地場製造業 インフォーマル部門 セミフォーマル部門 技術革新 技能習得 労働組織 徒弟制度

1. 研究開始当初の背景

【アフリカ産業の二重構造】

サハラ以南のアフリカ(以下単にアフリカ)では、国営企業及び国家と密接に関わる少数の大規模な企業がフォーマル経済の大半を占めてきた。一方、大多数の人々の経済活動は、組織性が低く、流動的で、国家によって捕捉されない(uncaptured)インフォーマルなものと捉えられてきた。農村での生産活動は自給を主たる目的として世帯別に行われ、都市の低所得層はその生計活動の多様さゆえに特定の事業に持続的・組織的に従事することが少ないとみられてきた。そして、人々の多くは納税・規制などを嫌い、インフォーマルな状態に留まることを選択するとされてきた。「失われた中間 missing middle」との表現が象徴する通り、アフリカの産業はフォーマルな大企業群とインフォーマルな零細事業者群との二重構造として理解されてきた。

【国家と産業活動の関係の偏りと変化の兆し】

歴史研究によれば、植民地支配を通じて外生的に作られた国家行政機構は、自己の財政的存続を主たる利害関心としてきた。植民地国家は一般的に、領域内で市場経済が未浸透なこともあり、小農や零細事業者など人々の生産・所得を捕捉して課税を行い得ず、振興への強い関心も持たなかった。課税や振興政策は一部の企業に集中し、二重構造が形成された。独立後の国家は、植民地国家の人々の経済活動への関心・関与能力の弱さや大企業への依存を受け継いで誕生した。研究代表者である高橋も、上記のような通説的理解に一定の妥当性を認めてきた。しかし、独立後のアフリカの国家と人々の関係について詳細な考察を重ねる中で、高橋は、こうした国家と経済のあり方は、国家の利害関心・能力の変化、市場経済の浸透、人々による新技術の獲得や経済活動の活発化によって変化し得る可能性を見出し、論文で指摘してきた(業績 16・50 参照)。

【下からの自生的企業の発展】

実際にアフリカ各国で 1990 年代に政治・社会の自由化が始まると、これに呼応して、多様な活動を担う自助的集団が形成され、さらに 21 世紀初頭以降の高度成長や市場経済の浸透の下で、政府の「上からの」組織化や出資にはよらずに、特定の経済活動に継続的に従事し、拡大する事業組織や企業(本研究ではこれを自生的企業と呼ぶ)が多く観察されるようになってきた(業績 39 参照)。自生的な企業の発展は、起業・参入の比較的容易なサービス業だけでなく、輸入品に対して優位な重い金属加工品(門扉、柵、窓枠など)の製造、労働集約的な道路建設、自動車修理・部品加工、現地産品を用いた農産物加工などの業種にも見られるようになった。高品質の縫製品をアフリカ大陸外に輸出するまでに発展した軽工業者の例もある。いずれも、従来よりも高度な技術・ノウハウや、一定の複雑な分業・協業などの組織化を必要とする加工業、製造業、建設業など、広い意味での「ものづくり」の分野で生じていることが注目される。これらのうちのいくつかは、公式に登録してフォーマル化し、あるいは、公式登録の一部のみ終えてセミフォーマル化するなどしている。フォーマル化、あるいはセミフォーマル化した企業は課税などの義務(ないしその一部)を果たし、政府・自治体もまた、操業場所の提供、職業訓練、事業の発注、資金補助などのかたちでこれらに関与し始めている。こうした自生的企業の発展は、人々の流動的・非組織的な事業、国家の捕捉力の欠如、企業の二重構造などの既成の理解に見直しを迫るものであり、そのことが本研究の着想の契機となった。

【研究の背景・補足】

なお、研究の成果で詳らかにするように、本件研究の過程で、インフォーマルにとどまり、あるいはセミフォーマルな状態にとどまっている「ものづくり」事業者ないし企業(以下、事業体)についても、生産が全体的に増加し、個別の事業体が長期間継続している場合があること、産業集積地(クラスター)ごとの一定の秩序をもった関係性があること、さらには技術の発展などの革新が起きていることなどが分かってきた。すなわち、インフォーマルあるいはセミフォーマルな事業体ないしその集合には、上述のような「組織性が低く、流動的で」停滞しているというような通念では形容できない、ダイナミズムがあることが分かってきた。そこで、本研究では、研究の枠組みの中に、こうしたインフォーマル・セミフォーマルな事業体も含めて研究を進めることとした。

2. 研究の目的

本研究では、アフリカ各国で広義の「ものづくり」に携わる個別の事業体・企業(フォーマル、セミフォーマル、インフォーマルなもの、また営利会社に加えて、個人事業主、協同組合を含む)を対象とし、企業等の事業内容・規模などの基本情報、事業者の個人史を含めて事業開始から現在に至る経緯を跡付けるとともに、以下の点を、現地調査を中心に明らかにした。

()企業発展の主要な内部要因(技術と組織のあり方)

A. 技術・ノウハウの共有

新しいものづくりの技術やノウハウが企業・事業体(以下、2つを総称して「企業」と呼ぶ)の成員による習得の経緯(徒弟としての学習、模倣、政府・援助機関による職業訓練など)

／習得された技術・ノウハウの実際の生産現場への適用や応用の過程／技術等が企業・事業体内外の関係者（経営者・労働者）に共有される方法（徒弟としての伝授、企業内訓練、模倣など）

B. 組織化の展開

成員間の雇用関係とその自由度／人的紐帯・相互扶助の有無と内容／必要な資金（信用）の調達の方法／組織の階層・指揮命令系統／関係事業体間の関係性／役割や保有設備に応じた分業と協業

()企業を取り巻く外部環境(政府の関与、市場の変動・活動条件の変化)とその企業への影響

A. 政府の政策・制度の変化

操業場所の提供／課税・規制／補助金・融資／職業技術訓練／登録手続きの簡素化・奨励

B. 市場の状況と企業の活動条件

当該業種の市場における需要／金融・物流などのサービスの浸透度／電力・道路や携帯電話網などインフラ整備／それらの変化の企業への影響／労働市場

本研究では、()()の視点をできる限り折り込みつつ、自生的企業の発展の多様性を解明することを目指した。そして、アフリカにおける国家と企業・人々間の関係性のダイナミックな変容のあり方と今日的特質、また国・地域などによる違いを明らかにするよう努めた。

3. 研究の方法

アフリカの複数の国の、複数のものづくり業種において、過去生産・雇用・組織の拡大、あるいは新しい技術や製品仕様の導入・開発を遂げつつある企業・部門を選定し、実証調査を行った。上記の研究目的2()Aの政府の政策については、各国政府と外国援助において重視され、2()Bの市場のなかでも非常に重要な、労働市場に強く影響を与えるものでもある、公的な職業訓練などの技術支援に焦点を当てた研究も行うものとした。

研究会(第1回研究会、2017年7月22日)を通じて、()内部要因(技術及び組織)、()外部環境(政策及び市場・活動条件)のそれぞれの内容と重要性に関して、理解を共有した。ただ、業種によって特徴や調査可能性が大きく異なるため、()と()のそれぞれを各対象業種において、メリハリをつけて調査し、分析することとした。

また予備試行調査や事前の情報収集を交えて、調査研究の実施可能性を考慮し、当初想定した業種から研究対象を検討し直した。その結果、ケニアの木工家具(特にソファ)製造業、同じくケニアの金属加工業、エチオピアの衣料縫製業、同じくエチオピアの革靴製造業、タンザニアの栄養補助食(「リシェ」)製造業、南アフリカの農牧業協同事業、ザンビアの食品加工(及び販売)業、ニジェールの金属加工業を主要な対象とした。エチオピアでは、労働市場での需要(求人)と供給(求職)を、ICTを通じて斡旋するなどの動きが見られ、ものづくり業種の市場環境を考えると欠かせないものとして研究対象とした。エチオピアのものづくり労働者と技能者に関わる労働市場に関しては、加えて衣料縫製業における職業訓練の内容がどれだけ、労働市場の需給をつなぎ合わせることに寄与しているかの観点からの研究も行うものとした。さらにウガンダにおいては、外国(日本及び韓国)の援助を受けた政府の職業訓練の調査を行った。これらのことを全体的に考慮し、4人の研究協力者を追加した。

現地調査全体の結果を踏まえて、自生的な企業及び企業間関係の特徴と展開過程の多様性、アフリカにおける国家(さらには援助機関)と企業・人々間の関係性の、ダイナミックな変容のあり方と特質を明らかにした。これらについては、「4. 研究成果」のところで述べる。

研究活動全体の運営、調査進捗状況のチェック、及び研究結果のとりまとめの主導などを高橋基樹(研究代表者)が、大山修一(副統括・研究分担者)、尾和潤美(統括補佐・研究分担者)の支援を受けて担当した。

また上記の各業種等について現地調査担当を決め、次の通りとした。

ケニアのソファ製造：高橋

ケニアの金属加工：井手上和代(研究協力者)、高橋

エチオピアの衣料縫製業：山田肖子(研究分担者)

エチオピアの革靴製造業：松原加奈(研究協力者)、高橋

タンザニアの栄養補助食製造業：加藤珠比(研究協力者)、高橋

南アフリカの農牧業協同事業：佐藤千鶴子(研究分担者)

ザンビアの食品加工(及び販売)業：西浦昭雄(研究分担者)

ニジェールの金属加工業：大山

ウガンダの職業訓練支援：鄭倣民(チョン・ヒョミン、研究協力者)、高橋

エチオピアの労働市場におけるICTの活用：福西隆弘

4. 研究成果

【初年度の研究成果とその発表】

初年度（2017年度）は、メンバーでの間の問題意識の共有と、メンバーの既往の業績をめぐる議論を通じてその深化を図った。同時に、研究代表者・分担者間での役割分担、各自の調査対象の具体的な選定について議論し、上記の研究の分担に従って、各々が現地調査等を開始した。当該年度における主要な研究成果のみをあげると次の通りである。

アフリカの経済・産業についての日本社会における関心に対応して、研究代表者は、特にケニアの自生的産業（道路建設業、ソファ製造業等）の概況に関する調査研究速報のウェブサイトでの公表を開始した（一部は翌年度公表）。またケニアの道路建設業についての研究をアジア経済研究所のワーキング・ペーパーとして公表した。

また山田は率先してエチオピアの衣料縫製業における技能向上に関わる論文を発表した。福西は、エチオピアの労働市場における労働者の技能と教育の影響に関わる論文を発表した。佐藤は、対象業種である南アフリカ農牧業を論ずる政策的背景として非常に重要な土地改革に関わる論考を公表した。大山はニジェールの金属加工業を研究上扱うにあたり、欠かせない情報である外部環境としての砂漠化と緑化事業についての論考を著した。

さらに、研究代表者の指導大学院生（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科所属）であり、エチオピアの革靴製造業を担当する研究協力者でもある松原を国際開発学会第28回全国大会に派遣した。松原の調査研究報告は、国際開発学会優秀ポスター発表賞を獲得した。

【第2年度の研究成果とその発表】

2018年度は前年度の予備的調査の成果を踏まえ、各担当者がそれぞれの対象について研究を継続し、成果も順次発表していった。

特に研究代表者は、木工家具製造業者と販売業者等関連事業者の調査を継続し、事業者間の関係を考えるのに重要なサプライチェーン及び製造工程の概略と、各工程の組織と分業のあり方、また熟練形成の方法、事業者と労働者の関係について詳細な調査を継続した。その結果、事業体の数、事業者・作業者の性別・エスニシティ・教育水準などの属性が明らかになるとともに、ソファの完成に至るまでの生産工程とそのサプライチェーンによる連結が構造的に明らかになってきた。加えて、事業者と労働者の関係には、多くの場合親方と徒弟として、技能・知識の伝授の供与者・受給者の関係がある一方で、業務の繁閑に応じて労働者は親方以外の事業者のために働くことを選択する自由をもつことが分かった。こうした研究の一端について、研究代表者は、上述のようにウェブサイトでの速報のかたちで、引き続き社会的還元を図った。

山田はエチオピアの衣料縫製業労働者の職業訓練に関わる論考を、査読付き雑誌（国際雑誌1・国内1）及び学会大会を通じて積極的に発表した。福西はエチオピアにおける労働市場における職業訓練の影響について、国際学会大会の場で報告した。西浦はザンビアの食品加工業に関する調査研究の中間の結果を国内学会大会で発表した。大山・佐藤は前年度の研究成果をさらに現地調査を踏まえて進展させ、国際的な場における発信を進めた。

年度末（2019年3月）に第2年度の成果をお互いに共有するため、第2回の研究会を行った。

【第3年度の研究成果とその発表】

第3回の研究会は、SKY（Skills and Knowledge for Youth）プロジェクト（リーダー：山田）との交流を兼ねて、名古屋大学で行った。山田が本件科学研究費で担当しているエチオピアの衣料縫製業での職業訓練に関する成果、高橋・松原が担当しているケニアのソファ製造、エチオピアの革靴製造に関する成果等を共有し、職業訓練と現場の「ものづくり」に関する最新の知見に基づいて意見交換を行った。

この後、高橋を中心に積極的に本科研全体の研究成果を内外に発信してレスポンスを得るよう努めた。国際開発学会第20回春季大会（2019年6月）では本科研に基づく企画セッションを行い、井手上がケニアにおける小規模金属加工業者の資金調達について、松原がエチオピア革靴製造業における労働者の属性とその技能形成における職業訓練の位置づけについて、また加藤がタンザニアの栄養補助食製造業における組織性について、また高橋が尾和と井手上との共同研究に基づき、ケニアにおけるソファ製造業の集積地内労働と知識・技能の伝授・共有について報告を行った。このセッションでは福西、西浦がコメンテーターを務めた。また西浦は同じ学会大会でザンビアの食品加工業についての発表を行った。

さらに高橋は研究成果の積極的な国際的発信を図るため、ケニアのケニヤッタ大学経済学部（2019年9月）、韓国の韓国外国語大学アフリカ研究所（2019年11月）において、ケニアにおけるソファ製造についての自らの研究について口頭発表を行い、アフリカ研究者と議論を行った。これらを通じて、アフリカのものづくり一般及び、ソファ製造をはじめとするインフォーマルな野外の集積地で行われるものづくりについて、現地をよく知る多くの研究者からの指摘と助言を得ることができた。

以上に加えて、高橋はアフリカにおけるものづくりの発展を考えるのに重要な開発援助についての論考を表した。山田、福西、佐藤、大山もそれぞれの担当分野に関する論考を著した。

2020年2月には、本科学研究費の成果を総合して国際的に発信し、またさらにアフリカとそこにおけるものづくり研究の専門家に批判と助言を仰ぐことを目的として国際ワークショップ

International Workshop on Indigenous Manufacturing を京都大学において開催した。このワークショップは、科学研究費補助金基盤（S）＜「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究＞との共同で行われた。ワークショップでは特に、本邦によるアフリカにおけるものづくりについての実証調査の成果を踏まえ、アフリカの自生的な、あるいは「内からの」工業化における課題と可能性を検討した。

同ワークショップのためケニアからジェルマーノ・ムワブ教授（ナイロビ大学）、マダガスカルからラミアリソン・ヘリンザトボ教授（アンタナナリボ大学）が来日した。日本からはフェルダ・ゲレゲン国際連合工業開発機関（UNIDO）東京投資・技術移転促進事務所次長、峯、福西、大山、尾和およびランディソン・ツィラヴ講師（京都大学）がコメンテーターとして参加した。高橋の司会で、下掲のような発表が行われた。

井手上和代 Finance for Industrialization in Mauritius, 1970s-1990s: Focus on the Role of Local Industrial Capitalist and Catalyst / 西浦昭雄 Market entry and supply chain of food processing SMEs in Zambia / 松原加奈 Skill formation, labor relations and firms' development in shoe-making industries in Ethiopia / ラミアリソン・ヘリンザトボ Madagascar's informal sector: Main challenges and survival strategy / 鄭倣民 TVET institutes and donor supports in Uganda / 加藤珠比（京都大学） Growing market on nutritional supplementary food in Tanzania: mixed porridge flour

上記の各発表を踏まえて、アフリカの「内からの」工業化における課題と可能性について活発な議論を行った。特に論点となったのは、自生的な企業が政府への登録を終えても残り続けるインフォーマルな特徴への注目、消費者の需要の変容と製造者の反応の重要性、また小売の現場と製造との間のサプライチェーンの具体的展開過程、企業と労働者による技術の習得と適応・応用、必要不可欠な金融サービス、企業自体による職業訓練・技能形成に向けた努力の重要性やその限界、またそれを踏まえた公的な職業訓練の重要性と国際援助の役割及び問題点などについてさかんな質疑応答が行われた。そして、アフリカの工業化は、開発援助や、外国からの直接投資も必要とするが、それだけでは決して持続的なものとはならないとの共通認識のもと、今後も、自生的な製造業の発展を、その実態に即して多面的に捉えるため、研究を継続していくことの必要性について合意された。

【最終的な研究成果のまとめ】

研究目的で示した4つの項目について、総合的には次のような成果が得られた。

() 企業発展の内部要因

A. 技術・ノウハウの共有：企業・事業体に対して新しい技術（技能、ノウハウを含む知識など）が提供され、それが企業・事業体の中で普及し、共有されることが重要である。しかし、自生的企業の多くは、労働者の離職率の高さなど厳しい市場環境に置かれており、そのインセンティブを殺がれることが多い。そこで期待される公的職業訓練は一定の役割は果たしており、規格・製法の伝授という意味でインフォーマルな事業にさえ寄与している面もあるが、同時に重要な回路は現場の指導者や労働者自身による教え合い、伝え合い、模倣である。

B. 組織化の展開：アフリカのフォーマルな自生的企業のなかには、生産規模の拡大、それに伴う機械化、分業の進展などに伴って上意下達の垂直的な組織の発展・複雑化を遂げてきた企業もある。他方で、インフォーマル・セミフォーマルな企業の場合には、事業体自体の規模はそれほど大きくならず、むしろ同じ産業に関わる事業体の数が増加していく場合がある。このことは、需要の拡大とともに参入障壁が低いこともあるが、同時に集積地等の環境が野外であることが多く、また労働者の雇用が事業体間で流動的なため、個々の事業者だけが高い技術・知識を独占することが難しいことによるものと考えられる。

() 企業を取り巻く外部環境

A. 政府の政策・制度の変化：政府の自生的企業に対する政策は、業種・企業の性質によって、また分野によって大きく異なる。例えば、同じ業種でも、輸出に貢献し、国策にかなう大企業にはそれに必要な高い技術の特化した職業訓練や管理職訓練が行われるが、小企業にとっては有用ではない。操業場所を小規模企業に提供している例もある一方で、使用する土地や建物に対する権利が保障されていないために、事業者が常に操業の継続に不安を抱えているため、建物や機械等への投資を躊躇している例もある。

B. 市場の状況と企業の活動条件：アフリカの自生的な企業・事業体の中には新興国製品との厳しい競争に耐え、むしろ新興国製の安価な投入財を活用し、生産を拡大している例もある。他方で、インフォーマルな事業体をはじめとして、フォーマルな金融市場へのアクセスは限られている。労働市場は、業種間・業種内で非常に流動的であり、そのことが、企業・事業体による技能の形成への投資を妨げ、発展には足枷になっていると考えられる。

今後、特に高橋の研究成果は山田らの共編著『途上国の産業人材育成（仮）』での松原との共著論文や高橋共編の英文書籍掲載の論文として公表される予定であり、準備を進めている。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計38件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Motoki Takahashi	4. 巻 -
2. 論文標題 TICADs under the Changing Global Landscape: Japan's Role in African Development Reconsidered.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 New Asian Approaches to Africa: Rivalries and Collaborations (Series in Politics)	6. 最初と最後の頁 83-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 高橋基樹	4. 巻
2. 論文標題 インフォーマル部門はアフリカ工業化の希望となるか? (下-3)家具製造業編	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Page	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://news.yahoo.co.jp/articles/60339ba4257ac06b95a44cfa6541b3d57478258d	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 高橋基樹	4. 巻
2. 論文標題 インフォーマル部門はアフリカ工業化の希望となるか? (下-2)道路建設業編	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Page	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://news.yahoo.co.jp/articles/cb6d1521a88dfa004e1657975194c21cda3c26c0	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 高橋基樹	4. 巻
2. 論文標題 インフォーマル部門はアフリカ工業化の希望となるか? (下-1)衣類縫製業編	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Page	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://news.yahoo.co.jp/articles/c1afa9c88e666007c4e877df9c4165905f753889	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋基樹	4. 巻
2. 論文標題 自主的な製造業、インフォーマル部門はアフリカ工業化の希望となるか？(上)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Page	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://news.yahoo.co.jp/articles/da3810c1a4280391d8f3a1052b49bc73f93221d5	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Berman, B. J. and M. Takahashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Development, and Social Cohesion in Africa: Overview	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 From Divided Pasts to Cohesive Futures: Reflections on Africa	6. 最初と最後の頁 161 189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋基樹	4. 巻 16
2. 論文標題 TICAD と FOCAC : 日中「協調」下の対アフリカ開発協力のあり方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 SRID Journal	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoichi Mine	4. 巻 -
2. 論文標題 How Nations Resurge: Overcoming Historical Inequality in South Africa	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Emerging States at Crossroads	6. 最初と最後の頁 187-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoichi Mine, Oscar A. Gomez and Ako Muto	4. 巻 -
2. 論文標題 Human Security in East Asia: Assembling a Puzzle	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Human Security Norms in East Asia	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ako Muto and Yoichi Mine	4. 巻 -
2. 論文標題 The Way Forward: The Power of Diversity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Human Security Norms in East Asia	6. 最初と最後の頁 295-309
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Carolina G. Hernandez, Eun Mee Kim, Yoichi Mine and Ren Xiao	4. 巻 -
2. 論文標題 Human Security in East Asia: Beyond Crises	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Human Security and Cross-Border Cooperation in East Asia	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Carolina G. Hernandez, Eun Mee Kim, Yoichi Mine, Ren Xiao and Ako Muto	4. 巻 -
2. 論文標題 Conclusion: Ownership and Collaboration for Human Security in East Asia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Human Security and Cross-Border Cooperation in East Asia	6. 最初と最後の頁 271-287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sam Moyo and Yoichi Mine	4. 巻 -
2. 論文標題 Perspectives on 'African Potentials	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Land, Agriculture and Unfinished Decolonization in Africa: Essays in Honour of Sam Moyo	6. 最初と最後の頁 5-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.14989/233006	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shoko Yamada, Christian Otchia, and Kyoko Taniguchi	4. 巻 21
2. 論文標題 Explaining Differing Perceptions on Employee's Skill Needs: the Case of Garment Workers in Ethiopia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Training and Development	6. 最初と最後の頁 51-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田肖子, クリスチャン S. オチア	4. 巻 27
2. 論文標題 非認知的能力が職能に及ぼす影響 - エチオピア縫製業労働者に見るカイゼン教育の効果	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichi, Oyama	4. 巻 57
2. 論文標題 Reverse thinking and "African Potentials" to combat desertification in the West African Sahel: Applying local greening techniques born from drought and famine in the 1970s	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 African Study Monographs supplementary issue	6. 最初と最後の頁 95-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.14989/233010	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大山修一	4. 巻 -
2. 論文標題 農耕文化圏と熱帯各地の農業 アフリカ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熱帯農学概論	6. 最初と最後の頁 75-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山修一	4. 巻 -
2. 論文標題 エチオピア高地のどこに文明が開化したのか? 盆地のもつ場所の力学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熱帯高地の世界 高地文明の発見に向けて	6. 最初と最後の頁 287-332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masumi Owa	4. 巻 -
2. 論文標題 Changing Aid Architecture in Africa through the Encounter between OECD Countries and non-OECD Countries	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 New Asian Approaches to Africa: Rivalries and Collaborations	6. 最初と最後の頁 237-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾和潤美	4. 巻 32
2. 論文標題 オルタナティブな開発協力: アフリカの実態から見る新しい国際開発の行方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 村田学術振興財団年報	6. 最初と最後の頁 305-312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chizuko Sato	4. 巻 -
2. 論文標題 Opportunities and Constraints for Black Farming in a Former South African Homeland: A Case Study of the Mooi River Irrigation Scheme, Msinga, KwaZulu-Natal, South Africa	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Land, Agriculture, and Unfinished Decolonization in Africa: Essays in Honour of Sam Moyo	6. 最初と最後の頁 147-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chizuko Sato	4. 巻 -
2. 論文標題 Land Tenure Reform in South Africa: Traditional Leadership, CLaRA, and 'Living' Customary Law	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ASC-TUFS Working Papers 2018 "Decelopment, Migration and Resources in Africa"	6. 最初と最後の頁 103-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Motoki Takahashi	4. 巻 670
2. 論文標題 Enterprise Promotion in the Road Construction Sector in a Conflict-ridden Area in Kenya: a Solution for the Nexus of Developmental Problems?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IDE Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://hdl.handle.net/2344/00048992	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋基樹	4. 巻 85
2. 論文標題 日本の援助の進化と退化 国際公共善への貢献を規定するもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 197-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋基樹	4. 巻 67
2. 論文標題 資源をめぐるポリティカル・エコノミー 現代アフリカ国家史に向けての覚書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西大学経済論集	6. 最初と最後の頁 71-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichi, Oyama	4. 巻 58
2. 論文標題 Collapse of Self-Sufficiency, Rampant Poverty and the Era of Terrorism in Rural Niger	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 African Study Monographs supplementary	6. 最初と最後の頁 115-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/244074	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大山修一	4. 巻 0
2. 論文標題 ザンビアの土地政策と慣習地におけるチーフの土地行政	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『現代アフリカの土地と権力』	6. 最初と最後の頁 71-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山修一	4. 巻 0
2. 論文標題 アフリカ農村における自給生活の崩壊と貧困、テロリズム .	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 矢ヶ崎典隆・菊地俊夫・丸山浩明編 『地誌トピック2. ローカリゼーション - 地域へのこだわり』	6. 最初と最後の頁 123-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山修一	4. 巻 0
2. 論文標題 アフリカ農村社会の自給生活とその将来.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 矢ヶ崎典隆・菊地俊夫・丸山浩明編『地誌トピック2. ローカリゼーション - 地域へのこだわり』	6. 最初と最後の頁 131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾和潤美	4. 巻 0
2. 論文標題 Economic growth in Africa; an opportunity for EU-Japan collaboration	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Europe 's World	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.friendsofeurope.org/publication/economic-growth-africa-opportunity-eu-japan-collaboration	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤千鶴子	4. 巻 0
2. 論文標題 南アフリカにおける慣習的土地保有権改革をめぐる争点と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 武内進一編『現代アフリカの土地と権力』	6. 最初と最後の頁 139-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chizuko Sato	4. 巻 0
2. 論文標題 Khoisan Revivalism and Land Question in Post-Apartheid South Africa	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Femke Brandt and Grasian Mkodzongi eds.Land Reform Revisited: Democracy, State Making and Agrarian Transformation in Post-Apartheid South Africa	6. 最初と最後の頁 199-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahiro Fukunishi and Tomohiro Machikita	4. 巻 678
2. 論文標題 Vocational Education and Employment Outcomes in Ethiopia: Displacement Effects in Local Labor Markets	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IDE Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://hdl.handle.net/2344/00049739	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahiro Fukunishi and Tomohiro Machikita	4. 巻 679
2. 論文標題 The consequence of educational reform on youth employment: evidence from an enrollment increase in vocational training in Ethiopia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IDE Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://hdl.handle.net/2344/00049743	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shoko Yamada, Christian Otchia, Kyoko Taniguchi	4. 巻 21
2. 論文標題 Explaining differing perceptions of employees' skill needs: the case of garment workers in Ethiopia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Training and Development	6. 最初と最後の頁 51-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijtd.12118	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田肖子	4. 巻 7
2. 論文標題 アフリカにおけるリテラシーと技能	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ教育研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://sites.google.com/site/aerf1960/kiyou/africa_vol7	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田肖子	4. 巻 7
2. 論文標題 解釈する能力と情報を反復する能力 アフリカ伝統社会での教育からの投影	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ教育研究	6. 最初と最後の頁 57-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://sites.google.com/site/aerf1960/kiyou/africa_vol7	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田肖子	4. 巻 25
2. 論文標題 SDG4形成過程の言説分析に基づくグローバル・ガバナンス再考	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 17-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計54件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 16件)

1. 発表者名 Motoki Takahashi
2. 発表標題 Competitive Collaboration through Knowledge Sharing: A Thought from Research on Open-air Sofa-making in Nairobi, Kenya
3. 学会等名 IAS-HUFS Seminar (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋基樹
2. 発表標題 ケニア・ナイロビにおける国家の不在とインフォ マリティ 公共財形成としてのソファづくりの技術の「贈与」
3. 学会等名 「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服： 人類の未来を展望する総合的地域研究
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋基樹,尾和潤美,井手上和代
2. 発表標題 ケニア・ナイロビにおける野外ソファづくりの展開 組織と技術の変化に注目して
3. 学会等名 第20回国際開発学会春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motoki Takahashi
2. 発表標題 Sharing Manufacturing Method as a Public Good: A thought from Research on Open-air Making of Sofas in Nairobi
3. 学会等名 African Industrialization from Within, Kenyatta university
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motoki Takahashi
2. 発表標題 Japan in Changing Landscape of African Development: History of TICADs and the World
3. 学会等名 International Workshop on New Asian Approaches to Africa- Rivalries and Collaborations (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Motoki Takahashi
2. 発表標題 Enterprise Promotion Policies in a Conflict-ridden Area in Kenya: Overcoming Vertical and Horizontal Cleavages?
3. 学会等名 Panel 2 Development Challenges: "Contribution of Area Studies to Global Challenges in Africa" Kyoto University-EHESS International symposium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋基樹
2. 発表標題 ケニア・ナイロビにおける野外ソファづくりの展開 組織と技術の変化に注目して
3. 学会等名 第19回国際開発学会春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takahiro Fukunishi
2. 発表標題 Vocational Education and Employment Outcomes in Ethiopia: Displacement Effects in Local Labor Markets
3. 学会等名 Annual Bank Conference on Africa (World Bank and Center for Global Development, Stanford University) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoichi Mine and Shinya Yasumoto
2. 発表標題 World Map in 2100: An Afrasian Dream”, Area Studies Towards the 21st Century: Global Experiences and China Paradigms
3. 学会等名 Center for Area Studies, Peking University, Beijing, China
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoichi Mine
2. 発表標題 Human Security and the Future of East Asia: Beyond a Donor Perspective
3. 学会等名 The 4th World Social Science Forum (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Yoichi Mine
2 . 発表標題 Human Security and Regional Cooperation in East Asia
3 . 学会等名 Symposium: The Practices of Human Security in the ASEAN+3: Recommendations from Academics and Practitioners, JICA Research Institute (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Yoichi Mine
2 . 発表標題 Human Security and the Future of East Asia
3 . 学会等名 2018 Annual Conference of Japan Association for Human Security Studies, Hiroshima City University (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Yoichi Mine, Oscar A. Gomez and Ako Muto
2 . 発表標題 Human Security Norms in East Asia
3 . 学会等名 H.E. Surin Pitsuwan Memorial Symposium: Diversity of Human Security Norms in Southeast Asia, Maha Chulalongkorn Building, Chulalongkorn University, Thailand (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Shoko Yamada
2 . 発表標題 Bridging the supply-demand gaps of industrial workforce: Findings from skills assessment of garment workers in Ethiopia
3 . 学会等名 Addis Ababa: Ethiopia Investment Commission (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 山田肖子
2. 発表標題 情報クラウド時代における知識生成 - 持続可能な開発目標 (SDGs) 形成過程の言説分析から -
3. 学会等名 教育社会学会第70回
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田肖子, クリスチャン S. オチア
2. 発表標題 非認知的能力が職能に及ぼす影響 - エチオピア縫製業労働者に見るカイゼン教育の効果
3. 学会等名 国際開発学会第29回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田肖子、島津侑希、辻本温史
2. 発表標題 日本の人づくり支援の源流と現在 - ODA における産業人材育成支援の変遷 -
3. 学会等名 日本比較教育学会第54回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田肖子
2. 発表標題 非認知的能力が職能に及ぼす影響 エチオピア縫製業労働者に見るカイゼン教育の効果
3. 学会等名 JICA研究所・国際開発学会共催セミナー「国際開発におけるカイゼン研究の到達点と今後の課題」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shuichi Oyama
2. 発表標題 Who are the authority and beneficiaries in the customary land under the land-market reform of 1995 Land Act in Zambia?
3. 学会等名 Centre for African Studies Gallery, Upper Campus, University of Cape Town. South Africa. (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大山修一
2. 発表標題 2019. 西アフリカ・サヘル地域における農耕民と牧畜民の紛争の激化とその社会的背景
3. 学会等名 日本沙漠学会2019年第30回学術大会・東京農業大学世田谷キャンパス.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大山修一・桐越仁美・原将也・堀光順・青池歌子・イブラヒム マンマン
2. 発表標題 西アフリカ・サヘル地域における都市ゴミを活用した緑化実験と9年間にわたる植物種の構成変化
3. 学会等名 第28回日本熱帯生態学会年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shuichi Oyama
2. 発表標題 Reverse thinking for tackling desertification in the Sahel of West Africa: The different view between local residents and foreigners
3. 学会等名 Panel 2 Development Challenges: "Contribution of Area Studies to Global Challenges in Africa" Kyoto University-EHESS International symposium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西浦昭雄
2. 発表標題 南アフリカにおける経済的不平等とBlack Economic Empowerment政策 - その導入背景に注目して -
3. 学会等名 国際開発学会 / 人間の安全保障
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nishiura, Akio
2. 発表標題 Market Entry and Supply Chain of Food Processing SMEs in Zambia
3. 学会等名 International workshop on indigenous manufacturing in Africa
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nishiura, Akio
2. 発表標題 South African Investment and Contract Farming: The Case of Beer Industry in Uganda
3. 学会等名 South Africa-Japan University Forum (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西浦昭雄
2. 発表標題 自生的企業の発展 - ザンビア農産物加工業の事例 -
3. 学会等名 日本アフリカ学会学術大会
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 西浦昭雄
2. 発表標題 中小企業の市場参入とサプライチェーンの形成 - ザンビアにおける農産物加工企業の事例 -
3. 学会等名 第30回国際開発学会春季大会
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 Masumi Owa
2. 発表標題 Changing Aid Architecture in Africa through the Encounter between OECD and non-OECD Countries
3. 学会等名 International Workshop on New Asian Approaches to Africa- Rivalries and Collaborations (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤千鶴子
2. 発表標題 南アフリカへのコンゴ人の混在移動 複合的な移動目的と移動経路
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chizuko Sato
2. 発表標題 Land Tenure Reform in South Africa: Traditional Leadership, CLaRA, and 'Living' Customary Law
3. 学会等名 Africa-Asia: a New Axis of Knowledge Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chizuko Sato
2. 発表標題 Congolese Mixed Migration to South Africa and Their Livelihood Activities
3. 学会等名 UP-TUFS Seminar (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chizuko Sato
2. 発表標題 Contentions Surrounding Land Tenure Reform in South Africa
3. 学会等名 UP-TUFS Seminar (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋基樹
2. 発表標題 日本の援助の進化と退化 政策論と類型論への示唆
3. 学会等名 国際開発学会第28回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大山修一
2. 発表標題 「逆転の発想」による荒廃地の環境修復と紛争予防 ニジェール・ニアメ首都圏における有機ゴミの収集と緑化活動
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大山修一
2. 発表標題 西アフリカ・サヘルにおける都市の生ゴミを利用した環境修復とその社会貢献
3. 学会等名 日本沙漠学会2017年第28回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shuichi Oyama
2. 発表標題 Autonomy and authority of chiefs regarding administration of customary land in Zambia.
3. 学会等名 60th annual meeting of African Studies Association. Land Reform, Rural Changes, and Political Power in Africa. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大山修一
2. 発表標題 西アフリカ・サヘル帯における農耕民と牧畜民間の紛争予防の試み：作物の食害に起因する武力衝突の回避と交渉に着目して：日本オセアニア学会・日本アフリカ学会合同シンポジウム『紛争と共存をめぐるローカルな対処：オセアニアとアフリカの事例から』
3. 学会等名 日本オセアニア学会第35回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾和潤美
2. 発表標題 グローバル・ガバナンスの変容とOECD
3. 学会等名 日本国際政治学会2017年度研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 尾和潤美
2. 発表標題 変化する国際援助構造における日本の役割
3. 学会等名 国際開発学会第28回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田肖子
2. 発表標題 ディーセント・ワークにつながる知識と技能：開発途上国における職業教育課程(TVET)修了労働者の技能測定モジュールの開発とカリキュラム評価
3. 学会等名 国際開発学会第28回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田肖子
2. 発表標題 Skills and Knowledge in the Context of the Sustainable Development Goals
3. 学会等名 UKFIET Oxford Conference on Education and Development (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田肖子
2. 発表標題 「伝統」と文化創造 植民地ガーナのアチモタ学校における人格教育
3. 学会等名 日本比較教育学会第53回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田肖子
2. 発表標題 学習者が選び取る技能形成の手段：ガーナ国クマシの職業教育訓練機関の自動車修理関連分野の学生の場合
3. 学会等名 アフリカ学会第54回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuyo Ideue
2. 発表標題 Finance for Industrialization in Mauritius, 1970s-1990s: Focus on the Role of Local Industrial Capitalist and Catalyst
3. 学会等名 International Workshop on Indigenous Manufacturing in Africa
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井手上和代
2. 発表標題 ケニアの小規模零細製造業者による資金調達 ナイロビ市カムクンジ地区およびカリオバンギ地区の事例
3. 学会等名 国際開発学会第20回春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井手上和代
2. 発表標題 ケニアの小規模零細製造業者による資金調達
3. 学会等名 (科研B研究会) 変動下のアフリカにおける自生的企業の発展に関する研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松原加奈
2. 発表標題 エチオピアにおける革靴製造企業 従業員の技術の形成に着目して
3. 学会等名 国際開発学会第28回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松原加奈
2. 発表標題 エチオピアの首都アジスアベバの革靴製造業における生産工程の組織化
3. 学会等名 第27回日本ナイル・エチオピア学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松原加奈
2. 発表標題 エチオピアの製造業における従業員の現状 革靴製造企業の技能形成に着目して
3. 学会等名 第55回日本アフリカ学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松原加奈
2. 発表標題 エチオピアの労働者の属性と技能形成 首都アジスアベバの革靴製造業に着目して
3. 学会等名 国際開発学会第20回春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tamahi Kato
2. 発表標題 Growing Market on Nutritional Supplementary Food in Tanzania: Mixed Porridge Flour
3. 学会等名 International Workshop on Indigenous Manufacturing in Africa
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Jung Hyomin
2. 発表標題 TVET Institutes and Donor Assistance in Uganda
3. 学会等名 International Workshop on Indigenous Manufacturing in Africa
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤珠比
2. 発表標題 タンザニアにおける離乳食リシェ製造 担い手である女性・グループに着目して
3. 学会等名 国際開発学会第20回春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤珠比
2. 発表標題 タンザニアにおける零細製造企業とそのグループの特徴 リシェ（混合粉）の事例から
3. 学会等名 国際開発学会第19回春季大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 高橋基樹（編集委員長）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 638
3. 書名 国際開発学事典	

1. 著者名 Yoichi Mine, Oscar A. Gomez and Ako Muto	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 324+xxvii
3. 書名 Human Security Norms in East Asia	

1. 著者名 Carolina G. Hernandez, Eun Mee Kim, Yoichi Mine and Ren Xiao	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 300+xxix
3. 書名 Human Security and Cross-Border Cooperation in East Asia	

1. 著者名 Yoichi Mine and Horman Chitonge	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Center for African Area Studies, Kyoto University	5. 総ページ数 187
3. 書名 Land, Agriculture and Unfinished Decolonization in Africa: Essays in Honour of Sam Moyo	

1. 著者名 山田肖子、廣瀬桂子、廣瀬信明、乾美紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 176
3. 書名 世界はきっと変えられる アフリカ人留学生が語るライフストーリー	

1. 著者名 Shoko Yamada	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Langaa Publishing	5. 総ページ数 312
3. 書名 Dignity of Labour for African Leaders: The Formation of Education Policy in the British Colonial Office and Achimota School on the Gold Coast	

1. 著者名 峯陽一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波新書	5. 総ページ数 238
3. 書名 2100年の世界地図 アフラシアの時代	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西浦 昭雄 (NISHIURA Akio) (00298217)	創価大学・経済学部・教授 (32690)	
研究分担者	大山 修一 (OYAMA Shuichi) (00322347)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	尾和 潤美 (OWA Masumi) (00756926)	中京大学・国際英語学部・講師 (33908)	
研究分担者	峯 陽一 (MINE Yoichi) (30257589)	同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授 (34310)	
研究分担者	佐藤 千鶴子 (SATO Chizuko) (40425012)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センターアフリカ研究グループ・研究員 (82512)	
研究分担者	福西 隆弘 (FUKUNISHI Takahiro) (80450526)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センターアフリカ研究グループ・研究グループ長 (82512)	
研究分担者	山田 肖子 (YAMADA Shoko) (90377143)	名古屋大学・アジア共創教育研究機構（国際）・教授 (13901)	
研究協力者	井手上 和代 (IDEUE Kazuyo) (00838435)	立命館大学・国際関係学部・嘱託講師 (34315)	
研究協力者	加藤 珠比 (KATO Tamahi) (10807704)	京都大学・アフリカ地域研究資料センター・特任研究員 (14301)	
研究協力者	鄭 倣民 (JUNG Hyomin) (70867069)	京都大学・アフリカ地域研究資料センター・特任研究員 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	松原 加奈 (MATSUBARA Kana)	京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・大学院 生	